

中島
艦上偵察機 彩雲 J11型

MINICRAFT 1/144スケールプラスチックキット
製作・文 政府開発援助

1. 彩雲について

海軍艦上偵察機「彩雲」は、太平洋戦争開戦後に設計され昭和19年に正式採用された機体である。長大な航続距離と敵戦闘機をしのぐ高速度を空母搭載サイズの機体に備えるべく、親子フラップ・主翼前縁スラット・厚板構造・大直径プロペラ・前傾垂直尾翼等の当時の航空技術の粋が結集されている。発動機には中島製「誉」を搭載し、このエンジンに合わせて胴体直径も絞り込まれた。不幸にして航空母艦での運用の機会には恵まれなかったものの、本機の優秀な性能により多くの貴重な情報もたらされた。偵察中にグラマンF6F戦闘機と遭遇してこれを振り切った際、**我に追いつく敵戦闘機なし**と打電したエピソードは開発関係者を大いに奮い立たせたという。

2. キットについて

かなり以前からクラウンモデルより発売されていました(時期によりスピットファイアとセットで販売されていたこともある)が、現在ではMINICRAFT製のものが流通しています。開発からかなりの年月が経過している為か金型のズレが多く、修正に手間取りました。主翼が分厚いプラ材の一発抜きなのにヒケが無いのは不思議です。デカールの色調は大変鮮明ですが、日の丸の直径が若干小さめで機体番号はありません。クラウンの1/144はシリーズを通してほぼ同様のパーツ割で、年少者でも簡単に組み立てられずらっと並べることができるというのがコンセプトの様です。

3. 製作と塗装について

彩雲のカウリングはかなり特徴のある形状なのですが、キットでは零戦21型のような形状なのでプラ板とエポキシパテで大きめに整形しました。また、胴体後部～垂直尾翼は厚過ぎるので削り込み、主翼端と水平尾翼はプラ材にて幅増しています。胴体と主翼の合わせに手間取り、エポキシパテをかなり使いました。付属のキャノピーは細いのでヒートプレスにより新造(キャノピーフレームはいつものマイクロラインテープ0.4mmを使用)、主脚カバーには薄々攻撃を行い、4mm丸木材から増槽を削り出して装備しています。機銃はジャンクパーツです。

塗装は本体をラッカー系の明灰白色と濃緑色(中島系)の筆塗りで塗り分け、カウリング・プロペラ・味方識別帯・コクピット内部・主脚等もラッカー系を筆塗りしています。青竹色のみエナメル系の調合色です。ガンダムマーカーのガンダムマッドブラウンでスミ入れ後つや消しクリアーを吹いてからマーキングしました。付属デカールの味方識別帯を利用してプロペラにストライプを施しました。日の丸と機番はパソコンとMDプリンタで自作(若干色が薄くなってしまった)です。343空所属機にしてみました。自作デカールが溶けると困るので、今回はデカールのオーバーコートはしていません。



前方より



後方より

4. 製作過程



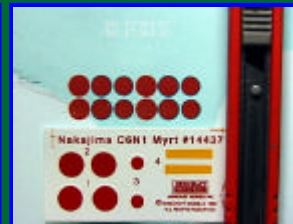
主翼端と水平尾翼中央部を延長。垂直尾翼周辺はこの後薄く整形した。



増槽は木丸材より削り出した。奥にあるのはキットのキャノピーを複製したもの。



カウリングは一回り大きくしている。キャノピーフレームはマイクロラインテープ。



デカールはサイズが合わない為、機番ともどもパソコンとMDプリンタで自作。